

○全日本障害馬術大会 2022

7月22日～24日、兵庫県の三木ホースランドパークで開催された第74回全日本障害馬術大会 Part II に9頭の遠野馬が出場。7頭が決勝進出し、2頭が内国産(130cm)と中障害C(120cm)でそれぞれ優勝しました。



内国産競技フォトセッション (左端：トオノ・インパルス)

内国産優勝はライディングパーク土佐の深水伸平選手とトオノ・インパルス。「コンビを組んで10年になりますが、今まで乗った馬の中でも特別な存在です。自己主張が強く体も小さいので、スピードに乗って馬の邪魔をしないようにしています。もともと140mを跳んでいましたが、年齢のことを考えて昨年から130cmにしました。今回は予選の調子が良くて一位しかないと思っていましたので、すごく嬉しいです。16歳なので全日本出場は今年が最後になると思います」とのことでした。



内国産優勝 トオノ・インパルス(牝16)と深水伸平選手

*トオノ・インパルス(幼名：ジャリスコ・ルージュⅢ) 2006年生まれ 父フリーデンスラート 母ガミンヌ・ルージュ



中障害C優勝 セルヴィス(牝17)と西脇小夜子選手

中障害C優勝はニシワキステーブルの西脇小夜子選手とセルヴィス。「セルヴィスと出会って1年半、手入れや普段の運動も自分でやってきたので信頼関係が築けていると思います。私自身もセルヴィスと一緒に常に勝ちにいけると思えるようになりました。今回は馬が年齢的にピークを過ぎているので勝てて本当に嬉しいです」
2015年長崎国体では遠野産馬のフリーデンティアモに騎乗し優勝した西脇選手(当時柿澤選手)。今年はセルヴィスと共に栃木国体に出場予定だそうです。

*セルヴィス(幼名：リディア 旧名：ゴールデン・レディー) 2005年生まれ 父フロドラジェルベーズ 母ラディリア

第74回全日本障害馬術大会II出場の遠野馬

内国産：アルミス(ベガサ乗馬クラブ) 中障害C：ハヤテ・ベガサ(ベガサ乗馬クラブ) ナイルゲ・ムスターAII(Tokaiホースパーク)

中障害D：マリアンハタコアA ビクトリアローズ(Tokaiホースパーク) マティライアン(ベガサ乗馬クラブ) ダービー：フロムA(岡山乗馬倶楽部)

遠野馬通信

馬産地遠野とホースマンを結ぶ
情報誌

No.69

2022年8月1日